

アカミノイヌツゲとウシカバ(クロソヨゴ)について

渡 辺 定 路

Ilex sugerokii Maxim. var. *brevipedunculata* S.Y.Hu

アカミノイヌツゲはイヌツゲに似た四弁花(五弁花もまじえる)が咲く、高さ2~3mの雌雄異株の常緑低木である。

花弁は長だ円形で長さ2mmあまり、雄花には3~5本の雄しべがあり、花弁より短い。雌花には1個の子房と退化した雄しべがある。果実は球形で径7mmばかりで、赤く熟し長さ1~1.5cmの柄がある。

葉は小枝に密に互生し、短い柄があり、長だ円形で長さ2~3cm、革質で表面に光沢があり、裏面は淡緑色を帯び、無毛である。

北海道、本州(夜叉池以北の裏日本)の高山に分布。県内では、三の峯、赤免山、経が岳、法恩寺、大長山、鉢伏山、取立山や、荒島岳、平家岳、冠山、金草山、笹ヶ峰、夜叉池の高所に見られる。

Ilex sugerokii Maxim. var. *longipedunculata* Makino

ウシカバはアカミノイヌツゲに比べ、葉がやや大きく長さ3~4cm、花柄の長さは2~3cmである。

本州(三河、信濃以西)、四国、九州(九州山脈の高地)に分布。県内では荒島岳、入谷国有林、冠山、金草山、笹ヶ峰、夜叉地等の越美山地や、日野山、鬼ヶ岳や、野坂山、西方岳、頭巾山、青葉山等の嶺南の山地に見られる。

昨年の夏、笹ヶ峰、冠山、金草山、夜叉池を歩きこの両種の分布について観察した結果や、今までの資料からアカミノイヌツゲは越美山地の西端(夜叉池)までは確実に分布している。しかし、どれくらいの高さからかとなると一様でなく個々の山で異なる。例えば荒島岳、笹ヶ峰、夜叉池では1000m前後、金草山では700m前後、冠山では800~900m前後まではウシカバが、それより高所にアカミノイヌツゲが生育している(昭和八年の目録には700米以上となっている)。

葉の大きさも色々と変化があり、葉だけで両種を区別することは困難で、花柄を見なければ判別できない。

生態的には、両種とも急傾斜の尾根や、母岩の露出している斜面などに群落を形成する。奥越の山地では両種ともキタゴヨウ・クロベ等の針葉樹やホンシヤクナゲと群落を形成、越美山地ではキタゴヨウ、ヒノキ等の針葉樹やホンシヤクナゲと群落を形成し、林床にイワウチワを伴うことが多い。嶺南の山地ではクロソヨゴはホツツジ等と群落を形成し、林床にオオイワカガミを伴うことが

多い。

羽水高等学校 教諭

アカミノイヌツゲ、クロソヨゴの分布図

Ilex sugerokii Maxim.

var. *brevipedunculata* S.Y.Hu ●

var. *longipedunculata* Makino ▲



